

綾町ユネスコエコパークにおける探究をベースとした ESD の実践

遠藤 晃

1. 背景・目的

エコパークにあるユネスコスクールは、ユネスコや文科省が ESD の推進拠点として位置付け、その成果は世界的に注目されている。また、ESD は今回の学習指導要領改訂における議論の基盤となり、思考と表現を重視する ESD の学び方・教え方が反映されている。重要なポイントは、ESD は単なる知識の習得ではなく、論理的な思考力、協調力、調整力、表現力など「総合的な学力」を向上させることであり、この「総合的な学力」が、持続的な社会の実現に不可欠となることである。同時に、学力向上の観点から、ESD の学び方・教え方は、より多くの学校に普及されることが望ましく、先進的役割をもつユネスコスクールは全国的にも注目されている。

本事業では ESD の学びに必要な「探究」に焦点を当て、綾町の児童・生徒の「探究」スキルについて、現状を把握するとともに、児童の探究スキル改善のための手法を探ることを目的とする。

2. プロジェクトの内容

- 1) エコパークの持続は、地域住民のエコパークに関する知識だけでなく、様々な主張のある中で問題を解決していく能力の向上が求められる。問題解決のためには、論理的な思考と行動を一致させることができる資質・能力の育成が不可欠であり、地域の保育・教育が系統的に取り組むことが重要となり、探究ベースの ESD が必要となる。
- 2) 探究は、課題設定、仮説、検証方法の検討、結果の考察など、問題解決のプロセスそのものであり、探究する力の育成を通して問題解決能力が向上することが期待できる。また、探究は新学習指導要領の学びの基盤であり、探究スキルの向上は「学力向上」に反映するとされ保育者・教育者の指導力が問われる (図 1)。



図1 ESDと学校教育の融合

- 3) 地域の持続可能性の中心に教育を据えることで綾町の ESD には多くの住民が関与でき、魅力的な教育 (ESD プログラム) が子育て世代の移住につながる可能性も考えられる (図 2)。

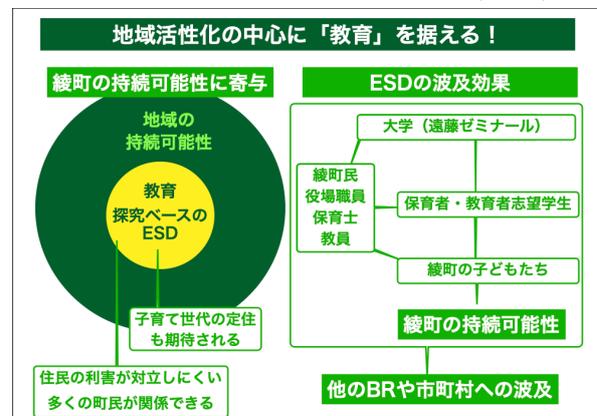


図2 ESDを核とした地域活性化

- 4) 本プロジェクトは大学が提供するプログラムで保育者・教育者を目指す学生が ESD を経験的に学びながら、その学生たちが考案した ESD プログラムで綾町の幼児・児童が学ぶことで、学生の経験・知識や指導力と、幼児・児童の探究力の向上を同時に目指す。また、役場職員を中心とした綾町民が ESD プログラムの提供に関与することで、綾 BR の ESD への理解と知識・スキルが横方向にも伝播し、綾町全体の ESD への意識・スキルの向上が期待できる

